

なぜイエスは死なねばならなかったのか

□はじめに イエス誕生の経緯

・・・マリアは月が満ちて、男子の初子を産んだ。そして、その子を布にくるんで飼葉桶に寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。 (ルカ 2 : 6~7)

イエスは、紀元前7年(6年)頃に、ユダヤのベツレヘムという町で生まれました。母はマリアです。彼女にはヨセフという婚約者がいましたが、二人が結婚する前に、マリアは処女でありながら神の霊、聖霊の力によってみごもりました。神はヨセフに天使を遣わし、マリアがみごもった子は**旧約聖書が預言していた救い主キリスト**(ヘブル語では**メシア**)である、と知らせたので、ヨセフはマリアとの婚約を解消せずに、妊娠を秘密にしました。

しかし、いつまでも隠しておくことはできなかったでしょう。ちょうどそのとき、ローマ皇帝が属国すべてに人口調査をするように命じたのです。二人はイスラエルの北に位置するガリラヤ地方、ナザレという町に住んでいましたが、二人ともユダ族ダビデの家系であったので、本籍地は南のユダヤ地方のベツレヘムという町でした。

二人は戸籍登録をするためという理由を告げて、そうそうにナザレを離れ、身重のマリアをいたわりながら、ゆっくりと旅をしてベツレヘムに来たものと思われます。ベツレヘムには大勢の人々が戸籍登録に来ていて、町の中には十分な宿泊先がなく、ヨセフとマリアは郊外の洞窟を宿泊場所としました。

当時、洞窟は、野で放牧する羊などの家畜を収容する場所として使われていたので、そこには、羊などに水やえさを与えるときの桶が置いてありました。

また、洞窟は、人が死んだとき、その遺体を布でくるみ、安置しておく場所でもありました。乾燥した気候の土地柄、一年もすると遺体は骨だけになります。その骨を集めてあらためて埋葬するというのが、当時の葬りの方法でした。ですから、洞窟には遺体に巻くための布も備えてありました。

ヨセフとマリアは生まれた男の赤ちゃんを、「布にくるんで飼葉桶に寝かせた」とルカの福音書2章7節は記しています。**その布とは、遺体に巻くための布だった**のです。それから、約37年後、紀元30年4月にイエスは十字架刑に処せられました。生まれたときに洞窟の布にくるまれたのは、まさにイエスが死ぬために生まれてきたことを示しています。

では、なぜ、イエスは、無実の罪で死なねばならなかったのでしょうか。

イエスが生まれる約700年前、ユダヤ地方には、「ユダ」というイスラエル民族の王国がありました。そのころの預言者でイザヤという人がいます。預言者とは、神のことばを受けて人々にそれを伝えた人のことです。本日は、**イザヤの預言の中から、救い主がなぜ死なねばならなかったのか、その死の理由**を聞きましょう。

□アウトライン

- A) 見よ、わたしのしもべは栄える
- B) 私たちが聞いたことを、だれが信じたか
- C) まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みを担った
- D) 彼は痛めつけられ、苦しんだ。だが、口を開かない
- E) しかし、彼を砕いて病を負わせることは、主のみこころであった

A. 見よ、わたしのしもべは栄える（イザヤ 52：13～15）

13「見よ、わたしのしもべは栄える。彼は高められて上げられ、きわめて高くなる。

14多くの者があなたを見て驚き恐れたように、その顔だちは損なわれて人のようではなく、その姿も人の子らとは違っていた。

15そのように、彼は多くの諸国民を驚かせる。

王たちは彼の前で口をつぐむ。彼らが告げられていないことを見、聞いたこともないことを悟るからだ。」

B. 私たちが聞いたことを、だれが信じたか（イザヤ 53：1～3）

1 私たちが聞いたことを、だれが信じたか。主の御腕はだれに現れたか。

2 彼は主の前に、ひこばえのように生え出た。砂漠の地から出た根のように。彼には見るべき姿も輝きもなく、私たちが慕うような見栄えもない。

3 彼はさげすまれ、人々からのけ者にされ、痛みの人で、病を知っていた。

人が顔を背けるほどさげすまれ、私たちも彼を尊ばなかった。

C. まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みを担った（イザヤ 53：4～6）

4 まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みを担った。

それなのに、私たちは思った。神に罰せられ、打たれ、苦しめられたのだと。

5 しかし、彼は私たちの背きのために刺し通され、私たちの咎のために砕かれたのだ。

彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、その打ち傷のゆえに、私たちは癒やされた。

6 私たちはみな、羊のようにさまよい、それぞれ自分勝手な道に向かって行った。

しかし、主は私たちすべての者の咎を彼に負わせた。

D. 彼は痛めつけられ、苦しんだ。だが、口を開かない（イザヤ 53：7～9）

- 7 彼は痛めつけられ、苦しんだ。だが口を開かない。屠り場に引かれて行く羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、彼は口を開かない。
- 8 牢獄に入れられ、裁判にかけられて、彼は処刑された。
彼の時代の者で、だれが思ったことか。
彼が私の民の背きのゆえに打たれ、生ける者の地から断たれたのだと。
- 9 彼の墓は、悪者どもとともに、富む者とともに、その死の時に設けられた。
彼は不法を働かず、その口に欺きはなかったが。

E. しかし、彼を砕いて病を負わせることは、主のみこころであった（イザヤ 53：10～12）

- 10 しかし、彼を砕いて病を負わせることは、主のみこころであった。
彼が自分のいのちを代償のささげ物とするなら、末永く子孫を見ることができ、主のみこころは彼によって成し遂げられる。
- 11 「彼は自分のたましいの激しい苦しみのあとを見て、満足する。
わたしの正しいしもべは、その知識によって多くの人を義とし、彼らの咎を負う。
- 12 それゆえ、わたしは、戦勝品（王権）を多くの人とともに彼に 与える。
彼は強者たちとともに、それを 分け与える。
彼が自分のいのちを死に明け渡し、背いた者たちとともに数えられたからである。
彼は多くの人を義にし、背いた者たちのために、とりなしをする。」

イエスの死は・・・

- ◇ 私たちの身代わりとして
- ◇ 私たちの罪を負うためであった
- ◇ これは、神のみこころであった

そのことを信じた者を 神は・・・

- 義（罪のない者）と認め
- 平安（神との新しい関係）を与え
- 神の国に入れてくださる